

力合わせて竹林整備

富山 金屋ふるさとの会



伐採された竹を運び出す児童

金屋ふるさとの会（吉村三次代表）は7日、呉羽丘陵の富山市金屋にある滝周辺を憩いの場にしようと、竹林整備を行った。協力を申し出た五福小6年生65人も参加。泥と汗まみれになりながら、友人と力を合わせて竹を運び出し、森で体を動かす気持ちよさを実感していた。

【webuncに写真3枚】

五福小6年「地域のため」と参加

金屋ふるさとの会は5月から、里山再生を目指す富山市のNPO法人さんたろう倶楽部、呉羽山の魅力アップに取組む同市の今井壽子さんと共に整備を始めた。総合的な学習で「地域のためにできること」を考えていた五福小の児童が、同会の活動を知り協力を決めた。

滝は白鳥城址南駐車場から南へ10分ほど森に入った場所、かつて田んぼだった広場が近くにある。児童は滝から広場まで1列に並び、伐採された竹を手渡しで運んだ。「もっこ」と呼ばれる昔の運搬道具を使い、広場に散らかっていた朽ちた竹を片付けた。

落差10mほどの滝が二つ並ぶ様子も眺め、沢ガニを見つけて歓声を上げる児童もいた。二村誠君は「作業は大変だったけど楽しかった。竹を減らして花を増やし、自然豊かな場所になったら遊びに来たい」と笑顔を見せた。吉村代表は「呉羽丘陵の歴史を知り、環境を大切にすることを育むきっかけになればうれしい」と期待していた。

この記事は、webuncの会員以外の方もご覧いただけます。

北日本新聞 平成29年7月8日(土)

幻の滝整備 児童が助っ人

富山・金屋で五福小6年生

声掛け合い 伐採の竹運ぶ

富山市金屋地区の住民有志でつくる「金屋ふるさとの会」NPO法人「さんたろう倶楽部」が、同地区の呉羽丘陵で整備を進める滝のある広場で7日、同市五福小の6年生65人が作業を手伝った。児童らは会員らが伐採して山積みにした竹を運んで「力所」にまとめ、会員の指導を受けながら、のこぎりや竹を切る作業に取り組んだ。

金屋ふるさとの会さんとして使われていた3本の三代会長は五福小で昔の農作業について指導して、荒れ地で、ヒートアップを「幻の滝」と銘打って広場備えた広場の整備を進めての目玉としている。金屋ふるさとの会の吉村



伐採した竹を運ぶ児童＝富山市金屋の呉羽丘陵

児童は滝から広場まで並び、長い竹をリレーして広場に運んだ。広場では会員が竹を短く切り、児童が会員手製のもっこを使って広場の端にまとめて積み上げた。児童らは声を掛け合いながら竹を運び、呉羽丘陵の自然に触れた。

作業に参加した三浦優介君は「竹は意外と重かったけど、みんなが集まる場所にした」と頑張ったと笑顔を見せた。飯田あゆみさんは「大変だったけど、広場の未来を想像すると楽しく思えた」と声を弾ませた。広場の整備を提案した金屋ふるさとの会の今井壽子さんは「活動を未来につなげるためにも、子どもたちと作業ができてよかった」と語った。

富山新聞 平成29年7月8日(土)